

I. 里親及び申込者のための研修と里親子のための親睦活動

【養子を育てたい夫婦のための連続講座】

申込者の高齢化が進み、初回来所から委託までの期間が短くならざるを得ないので、委託前にはできるだけ講座を受講するよう勧めている。6月より大阪府養子里親支援機関事業を受託し、認定前研修として位置づけられたことから、従来より回数を増やし、4回実施することとなった。

講座は、連続3回で土曜日13時30分から17時（最終回は17時30分）。のべ79組の受講者のうち、養親候補者として推薦したのは13組、調査検討中3組である。昨年度以前に受講し、今年度推薦したのは12組である。児童相談所から勧められて講座を受講し、その後に地元の児童相談所や民間団体からの紹介で子どもを受託している夫婦も増えている。

		第81回	第82回	第83回	第84回
日 時		6/4, 11, 18	9/17, 24 10/1	12/3, 10, 17	3/4, 11, 18
場 所		大阪市立社会福祉センター会議室			
内 容	1 グループセッション	参加者と職員とのワーク			
	2 「養子里親の体験談」から	O夫妻	T夫妻	T夫妻	S夫妻
	3 「養子を育てること」とは…	岩崎 美枝子			
参 加 者		17組	23組	21組	18組
オブザーバー参加者		4名	4名	0名	3名

【養親ゼミナール】

今年度より、養親を対象にした研修を隔月で実施した。養親の関心の高いテーマとして、下記のテーマを取り上げた。テーマを絞り込んだため、好評だった。11月の参加者から、発達障害のある子どもへの関わり方をもっと学びたいという声があり、3月より中高生の親向けのペアレントトレーニングを月1回程度開催している。

- ① 5月21日（土）13:00～16:00 「真実告知」（養親12名、養親希望者2名、関係機関14名）
- ② 7月23日（土）13:00～16:00 「ルーツ探し」（養親21名、養親希望者2名、関係機関16名）
- ③ 9月20日（火）10:00～14:00 「思春期」（養親10名、養親希望者2名、関係機関13名）
- ④ 11月21日（月）10:00～14:00 「発達障害のある（あるかもしれない）子どもをほめて育てる」
講師：畿央大学准教授 古川恵美氏（養親13名、関係機関7名）
- ⑤ 1月21日（土）13:00～16:00 「養母と岩崎の対談～子どもが30歳以上になってみたら～」
体験発表：大阪府N養母（養親15名、関係機関4名）
- ⑥ 3月25日（土）13:00～16:00 「成長した養子からのメッセージ」体験発表：大阪府Nさん（35歳・男性）（養親18名、里親1名、週末里親1名、養親希望者8名、関係機関5名）

【里親子の親睦を深めるための活動】

- (1) ふれあいキャンプ 8月16～18日（於：YMCA阿南国際海洋センター（徳島県阿南市））

「海のキャンプ」ではずっと利用させてもらっている施設である。オーシャンスイム、一人乗りカヤック、ジャンボカーなど、海洋プログラムを満喫できた。子ども19名を縦割りの4グループに分けたため、少人数のグループで目も行き届きやすく、活動しやすかった。今年も、成長した養子たちが、サブリーダーとして参加してくれている。公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団、大阪南YMCAのご支援を受けておこなっている。

（参加：子ども19名、大阪南YMCAスタッフ6名、サブリーダー3名、協会職員5名）

- (2) 第18回 おやこDEうんどう会 11月3日（祝）（於：大阪市立長居小学校）

協会を通じて子どもを迎えた養親家庭、大阪市の養育里親、大阪府の登録里親、施設に案内を出している。当日参加して取り組めるような幼児、小学生、親子競技を企画している。昨年度に引き続き、第

一工芸株式会社の有志の会が協力してくださり、競技も3種目、企画、準備、当日の進行を担当、また、参加者への景品も提供いただいた。当日の運営ボランティアとしても9名の社員さんの参加があった。成長した養子、これから養子を迎えようと考えている夫婦などを含む27名のボランティアさんにもご協力いただいた。

参加：50 家庭（159 名）、2 施設（9 名）、ボランティア 27 名、来賓 3 名

(3) J B クラブ

養（里）子を養育中の母親（父親）が、子ども連れで集える「ひろば」の開催を平成 18 年度より継続。月に 1 回（10:30～15:00）、主に就園前の幼児を養育中の養（里）親家庭が参加してくれているが、夏休みやクリスマス会は就園児の参加も多い。養母同士のつながりも密になっており、親しく会話を交わす様子がみられる。公益財団法人大阪コミュニティ財団ふれあい基金のご支援を受けておこなっている。27 年度までは、愛の手を通じて子どもを迎えた家庭に案内をしていたが、大阪府養子里親支援機関となったため、大阪府内の養親家庭にも参加を呼びかけている。毎月 1 回、計 12 回開催し、参加者はのべ 67 家庭。28 年度は参加者が少なかったため、参加の呼びかけを強化していきたい。

(4) J B の O B 会

平成 23 年度より夏休みに小学生以上の養（里）子と保護者を対象に企画、実施していたが、あまり参加が多くなかったため、今年度は実施せず。

【児童相談所里親担当者会議の開催】

大阪府・市の子どもを委託したことのある児童相談所を中心に広く呼びかけての里親担当者会議は、今年で 28 回目となった。例年通り 2 日間の日程を組み、1 日目を研修会、2 日目を学習会とした。また、1 日目の夜には交流会をおこなった。

日 時	2 月 9 日（木） 研修会 13 時 30 分～17 時 30 分 / 交流会 18 時～21 時 2 月 10 日（金） 学習会 9 時 30 分～12 時
場 所	大阪市立社会福祉センター
内 容	1 日目 1 「児童相談所における養子縁組の取り組みについての調査より」 講師：瀬里 徳子氏（福岡市こども総合相談センターこども支援課里親係長） 2 各所報告「養子縁組への取り組みの現状、今後へむけて」 2 日目 「新生児委託の諸問題について」講師：岩崎美枝子
参加児相	埼玉県所沢、埼玉県越谷（草加支所）、さいたま市、東京都児童相談、横浜市西部、石川県中央、長野県松本、浜松市、愛知県西三河、愛知県刈谷、三重県北勢、三重県中勢、三重県南勢志摩、滋賀県中央、京都府家庭支援総合、京都府宇治、京都市、京都市第二、奈良県中央、奈良県高田、兵庫県中央、神戸市、和歌山県子ども・女性・障害者、岡山市、広島県東部、徳島県中央、大阪府中央、池田、東大阪、岸和田、堺市、大阪市 1 日目 28 児相（32 名） 2 日目 31 児相（36 名）

Ⅱ. 里親制度に関する広報活動

【機関紙・誌の発行】

(1) 月刊紙「あたらしいふれあい」の発行

大阪府共同募金会 N H K 歳末助け合い配分金をいただき、毎月 3,500 部を印刷し、約 3,000 部発送。表紙のカット、発送作業のすべてにボランティアの協力を得て、毎月の発行を継続している。

(2) 年刊誌「育てる」の発行

大阪府共同募金会 N H K 歳末助け合い配分金をいただき、No. 53 を大阪・神戸事務所あわせて 3,550 部発行。大阪事務所では、会員、里親、関係機関等に 1,850 部送付している。

【一般向けチラシ・冊子等の作成】

(1) 協会リーフレット（増刷）：3,000 部

- (2)週末里親広報用チラシ（増刷）：10,000 部
 (3)大阪府養子親支援機関リーフレット：20,000 部

【思春期の養子をテーマにした小説の発行】

『なつかがなつかであるために～15 歳 踏み出す一歩～』（著者：あいだひさ 印刷：柊パレード）を出版。初版は日本財団の助成を受けて 300 部を出版し、全国の児童相談所、都道府県立図書館へ発送し、9 月に 2 版を 500 部増刷した。

【愛の手街頭キャンペーン】

里親制度や協会活動のための街頭キャンペーンには、平成 6 年度から大阪曾根崎ライオンズクラブのご支援を得ている。この活動はクラブの奉仕活動として位置づけ、取り組んでいただいている。

5 月 26 日、10 月 6 日に梅田 HEP FIVE 前で実施。協会活動の趣意書をつけた玩具（各 1,000 個ずつ）を大阪曾根崎ライオンズクラブのメンバーとともに通行人に配布し、里親制度及び協会活動の広報をおこなった。玩具の購入および、チラシ付けも大阪曾根崎ライオンズクラブのメンバーがおこなってくれた。5 月、10 月ともに、多くの人に手にとってもらえた。

【里親いろいろ応援団】

大阪市里親施策推進プロジェクト会議の活動の一環で、平成 21 年度より市民ボランティア「里親いろいろ応援団」として活動、協会が事務局となって活動をおこなっている。毎月定例会を開催しているが、平成 24 年度より大阪市管の施設の里親支援専門相談員も定例会に参加している。

毎月 11 日	イオン鶴見緑地店にて「イエローレシートキャンペーン」に参加。買い物客がレジ精算時に受け取った黄色レシートを応援したい団体の投函 BOX へ入れると、購入金額合計の 1 % が希望する品物で寄贈されるしくみ。毎回、応援団員が里親制度に関するチラシや風船をセットにしたもの 100 部あまりを配布している。28 年度は 59,000 円分の寄贈があり、イベント時に使用する備品を購入した。
4 月 30 日(土)	近鉄百貨店上本町店「うしろく外あそびフェスティバル」 百貨店屋上にてゴールデンウィーク中の集客イベントとして外遊びが企画されている会場で、リコーダー演奏、風船配布とともに里親制度の説明を行った。
11 月 5 日(土)	ひがしなり玉手箱街道にてチラシ配り
12 月 18 日(日)	あべのハルカス近鉄本店にて縁活プログラム「さとおやっとなあに？」 4 年目を迎えたイベントである。施設職員らによる女声コーラス、リコーダー演奏、紙芝居「すみれの会」、ゴスペルグループによるミニコンサートをおこない、集まってくれた聴衆に対して、里親制度の広報活動を実施。里親制度の Q & A とともにクイズ出題により聴衆が最後まで参加できるような工夫をした。里親子、養親子向けのメッセージを集めたパッチワークキルトの作製にも協力していただいた。
1 月 29 日(日)	東成区民センターにて里親応援フェスタ「来て、見て、聞いて 知ってください里親制度」13:30～16:30（参加 194 名） 第 1 部は地元の「こども・いのち輝け！合唱団」と「キッズストリートダンス教室」映像絵本上映「ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの」、里子の作文朗読、女声コーラス「母にささげる詩～親子だもん」合唱、第 2 部では吉本新喜劇役者故岡八朗氏の娘、市岡裕子氏のトーク & ゴスペルライブ「誰かがあなたの愛を必要としている」をしていただいた。ロビーでは絵本『ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの』の原画展も行った。

その他、大阪市里親施策推進プロジェクト会議にもオブザーバー参加している。

【一般向けの広報】

日本財団から、助成金をいただき、一般市民向けの広報活動をおこなうことができた。

(1)バスへの広告掲載

29 年 1 月 24 日まで京阪バスの戸袋広告をおこなった。

(2) 情報誌等への広告掲載

新聞折り込みタウン誌「ウーマンライフ」大阪まんなか版（5月17日） 11万部配布

同「ウーマンライフスペシャルライフ」箕面・池田版（12月13日） 5万部配布

同「ウーマンライフ」大阪帝塚山版（3月16日） 15万3千部配布

タウン誌「ウーマンライフプレミアム」北葛ダイスキ！（3月17日） 4万部

取材を受けての広告記事という形にしてもらい、活動の中身がよく伝わった。WEBにも掲載され、記事の閲覧ができた。

【毎日新聞その他による報道記事】

H28. 4. 29 「養子縁組促進 議論の時」（読売）

5. 25 「里親 できることを一家庭養護促進協 総会で活動報告」（毎日）

5. 27 「里親制度知って啓発ちらし配る 大阪・北区で」（毎日）

7. 9 「特集『子なし』の真実」（週刊東洋経済）

10. 2 「養子縁組考えるセミナー」（毎日）

10. 6 関西テレビお昼のニュース「愛の手街頭キャンペーン」

10. 7 「1人でも多くに 大阪・北区で啓発」（毎日）

11. 5、12. 3、12. 11 「あなたの愛の手を チャリティ紙上オークション」（毎日）

11. 5 「不動産 無料で相談 あす岸和田 里親制度紹介ブースも」（毎日）

11. 16 「思春期迎えた養女の成長 『なつかがなつかであるために』 里親が小説を発刊」（神戸）

H29. 1. 10 「家庭養護促進協『福あめ』を販売」（毎日）

1. 20 「温かな心 生かします 本社チャリティオークション 収益110万円寄託」（毎日）

1. 19 「里親制度PRイベント どんな子も愛されたい 故・岡八朗さんの長女・市岡さん、壮絶な家庭環境語る 29日、東成」（毎日）

1. 27 「養子縁組制度 知って ドラマ『はじめまして、愛しています』。」（毎日）

2. 6 「特別養子縁組テーマのドラマ、込められた思いは？」（朝日）

3. 9 「週末里親制度 11日に説明会」（毎日）

【各地・各団体での講演会等で講師として活動の紹介等をした】

H27. 4. 3 日本財団主催「よーしの日2016」にて団体紹介（和田）

4. 4 日本財団主催「養子の日キャンペーン 子どもが家庭で育つ社会をつくるシンポジウム」にて登壇（岩崎）

5. 17 大阪西北ロータリークラブ例会にて卓話（山上）

6. 16 東淀川区社会福祉協議会総会の記念講演にて講演（岩崎）

7. 1 日本財団主催「家庭養育の推進に関する調査第1回アドバイザリーボード」に出席（岩崎）

7. 14 大阪市児童福祉施設連盟乳幼児分科会で協会の活動について講演（山上）

8. 3 ISSJ主催「子どもの家庭養護推進のための福祉現場ネットワークづくりのためのアドバイザリー会議」企画委員（岩崎）

8. 8 日本財団主催「家庭養育の推進に関する調査第2回アドバイザリーボード」に出席（岩崎）

9. 9 里親支援専門相談員向けの研修会の講師（岩崎）

10. 19 ISSJ主催養子縁組におけるネットワーク会議に報告者として参加（岩崎）

10. 20 平成28年度難波市民学習センターネットワーク型市民セミナー「養子縁組を考える～不妊と選択～」Part3で講師（山上）

10. 22 沖縄県平成28年度第1回更新研修で講演（岩崎）

10. 31 小舎制養育研究会総会と研修会にパネラーとして参加（～11月2日）（岩崎）

11. 10 日本財団主催「家庭養育の推進に関する調査第3回アドバイザリーボード」に出席（岩崎）

11. 10 平成28年度第2回河内会職員研修会講師（田邊）

11. 20 和歌山県里親支援センターなでしこ主催「特別養子縁組・親子の道のり～子どものしあわせのために～」講師（岩崎）

12. 2 ISSJ主催「子どもの家庭養護推進のための福祉現場ネットワークづくり」会議にて発表（岩崎）

- H28. 2. 11 大阪府不妊専門相談センター ミニ公開講座講師（中島）
 2. 14 ISSJ 主催養子縁組におけるネットワーク会議にアドバイザーとして参加（岩崎）
 2. 18 浜松市児童相談所里親研修会「思春期をのりこえる」講師（岩崎）
 3. 1 三重県里親支援専門相談員研修会講師（岩崎）
 3. 5 平成 28 年度第 5 回ドレミファミリー交流会「試し行動と真実告知」講師（岩崎）
 3. 9 平成 28 年度東京都里親支援機関事業相互交流事業拡大講座「子どもに愛と想いを伝える『真実告知』とは」講師（岩崎）
 3. 13 吹田市立保健センター母子保健研修会講師（山上）

【パネル展示など】

1 月 30 日～3 月 31 日 大阪市社会福祉研修・情報センターロビーにて展示

Ⅲ. 広報と活動資金獲得のための活動

【えべっさん飴売り】

例年通り、下記のようにおこなった。飴の種類や仕入れ数を増やすため、仕入れ先の開拓については模索中である。昨年度より発注しているオリジナル飴を 1400 袋を作成、七福神キャンディとチョコボール、福豆、なにわづの飴すべてを、完売することができた。今年も 3 日間でのべ 62 名のボランティアさんにご協力いただいた。里親制度を周知するためのカードを新しく作り、オリジナル飴には封入している。袋の中に、愛の手運動の説明を書いたチラシを同封することで、広報活動もおこなっている。

日 時 1 月 9 日（月・祝）～11 日（水）

場 所 今宮えびす神社

収 益 793,715 円

チャリティーボックスへの寄付 192,056 円

Ⅳ. 研修活動

【職員のための研修】

- H27. 4. 4 日本財団主催「養子の日キャンペーン 子どもが家庭で育つ社会をつくるシンポジウム」（岩崎・中島・和田）
 4. 27 第 59 回大阪市里親会定例年次総会（田邊）
 5. 9-10 修復的愛着療法研修（岩崎）
 6. 22 講演会「血のつながりも超える愛情の育み方がわかる個性心理学」（山上）
 7. 3 近畿地区里親研修会（岩崎・山上・中島）
 8. 5 日本精神科診断学会（岩崎）
 10. 6 平成 28 年度難波市民学習センターネットワーク型市民セミナー「養子縁組を考える～不妊と選択～」Part 1（山上）
 10. 13 同 Part 2（山上）
 11. 12-13 第 61 回全国里親大会茨城大会（中合）
 11. 25-26 JaSPCAN 第 22 回学術集会おおさか大会（岩崎）
 11. 27 「家族の意味、親子の意味、一緒に考えたい大阪市里親会シンポジウム～親と暮らせない子どもたちの今～」（和田）
 12. 2 ISSJ 主催「子どもの家庭養護推進のための福祉現場ネットワークづくり」会議（山上・和田）

Ⅴ. ホームページ関連

プロバイダー会社のサービス終了により、ホームページアドレスを変更し、大幅改訂中である。

→ 新アドレス <http://ainote-osaka.com>

平成 24 年 10 月に開設した Facebook ページ (<http://www.facebook.com/ainote.osaka>) の活用が中心であり、愛の手記事へのリンク、日々の活動についての報告、イベント開催などの告知等を行っている。

ホームページを通じての今年度の書籍購入は 69 件 100 冊。会員入会は 1 件であった。
メール相談については、以下のとおり。開設からの累積受付件数は 1,426 件となった。メール相談を通じて来所につながった養子縁組希望者が 9 件、週末里親希望者が 1 件あった。

【地域別】

大阪府下	13
近畿圏内（大阪府を除く）	6
近畿圏外	19
海外	2
不明	12
合計	52

海外：アメリカ、フランス

【相談者の年齢】

10代	2
20代	4
30代	5
40代以上	20
不明	21
合計	52

【相談内容】

養子を育てたい	31
里親一般について知りたい	0
縁組・入籍等の手続きが知りたい	0
週末里親について知りたい、やりたい	11
国際養子について知りたい	2
養子になりたい、里親を探してほしい	1
養育相談	0
その他	7
合計	52

* メール相談を通じて来所
養子縁組希望 9 件
週末里親希望 1 件
その他 0 件

VI. 相談事業

【愛の手相談室】

相談の現状については以下のとおり。

「縁組後のアフターケア」は、思春期の子どもを持つ養親からの相談、養子自身からのルーツ探しなどの相談が見られる。

相談内容	件数	電話	来所・訪問	備考
養 護 相 談	7	6	1	
養 育 相 談	16	15	1	
縁組後のアフターケア	45	31	14	思春期、非行、ルーツ探し等
継 続 相 談	0	0	0	
そ の 他	24	22	2	
合 計	92	74	18	

【APCC（思春期妊娠危機センター）】

相談件数はかなり減少傾向にある。（相談電話専用番号：06-6761-1115 月～金 10：00～17：00）

【受付件数】 オープン後からの累積受付件数は、6,609 件

本年度の相談件数は、以下のとおり。

相談内容	件数	相談内容	件数
妊娠にまつわるもの	3	性病	0
人間関係の悩み	1	近親姦	0
自分の身体の悩み	2	How to Sex	1
マスターベーション	0	養子縁組	0
避妊法について	1	その他	3
同性愛	0	合 計	11

Ⅶ. 「ふれあいの家」活動

「社会福祉法人そうそうの杜」と賃貸契約を結び、知的障害者の生活支援のためのグループホームとして貸与していたが、平成 27 年 6 月末で契約解除となった。日本財団からの助成金を受け、業者による清掃や電化製品の購入などをおこない、遠方に住む里親希望者が、対象児童との養育実習のために来阪する際の宿泊拠点として使用してもらうことにした。北海道、山形県、茨城県、長野県在住の里親希望者 5 組がいずれも約 1 ～ 2 ヶ月間滞在した。

Ⅷ. 大阪市週末里親開拓事業

平成 6 年 7 月から、大阪市より委託された事業であり、制度がスタートして 22 年が過ぎた。今年度は 14 名の児童の新規登録があり、うち 4 名が活動を開始し、1 名は年度内に中止となった。未委託の 9 名は引き続き探す。昨年と同様に、里親登録者の受入希望児童の年齢が小学校低学年以下や女兒に偏りがちであるため、小学生以上の男児は決まりにくい。また、近年発達の遅れや多動傾向や発達障害がみられる子どもが希望児童として増えているが、里親として受け入れ希望はあまりなく、なかなか決まりにくい。昨年度未委託であった 23 名のうち 7 名が活動を開始した。残りの 16 名のうち、方針変更のため 6 名が中止されたため引き続き里親を探す児童は 10 名である。

未委託の登録里親については、里親が希望する年齢や性別、距離等があわず、適当な候補児がなく、待たせてしまっている場合もある。今年度は来所して申込書を提出した 14 家庭のうち 11 家庭が登録したが、1 家庭が年度内に活動を開始した。より広く里親家庭を募ったり、様々な課題のある子どもへの理解を深める等の試みをしたりして、マッチングまでつなげていく必要がある。協会外の里親（制度開始以前から活動中の里親、施設職員、施設が独自に開拓した里親）は委託里親数 61 名、委託児童数 63 名となっている。

〈週末里親開拓〉

	28年度	累計
電話等問い合わせ件数	31	1561
申込書提出件数	14	518
登録件数	11	411
調査件数	10	198

〈平成 28 年度活動状況〉

里親数		委託数	解除数	28年度へ継続
	28年度中に新規委託	10	0	10
	27年度以前からの委託継続	50	9	41
	合 計	60	9	51

児童数		登録	中止	委託数	解除数	28年度へ継続	未委託
	28年度中に新規登録	14	1	4	0	4	9
	27年度以前に未委託	23	6	7	0	7	10
	27年度以前からの委託継続			53	9	44	
	合 計			64*	9	55*	19

* 里親数と一致しないのは 1 名の里親に 2 名の児童がマッチングがされている里親が 4 組いるため

〈委託解除された子どもの理由内訳〉

委託解除理由	28年度	累計	委託解除理由	28年度	累計
実親引き取り	1	19	施設措置変更	0	5
養子里親委託	1	17	府へケース移管	2	4
養育里親委託	0	12	堺市へケース移管	1	1
里親の都合	0	18	その他	0	2
里親子関係悪化	2	35	合計	9	145
施設措置解除	0	28			

【週末里親研修会・懇談会】

(1) 9月10日（土） 13:30～16:00（対象：里親、施設職員）

今回は「研修会」の形で実施。児童福祉施設や里親等、社会的養護から巣立った子ども達の居場所として、大阪市東住吉区で活動しているサロン・ド・ソワレの竹内宏一氏に、サロン・ド・ソワレを利用する子ども達との関わりを通じて、施設退所後、子ども達はどんなことに困ったり、悩んだりしているのか、施設を出る前にどのような経験をしていくと有効なのかについて話していただいた。多くの週末里親が、関わっている子どもたちの将来について心配されており、退所後に子どもが相談できる場所や人がいることが分かり、心強く思われていた。また竹内氏の活動や思いを聞いて、自分たちの今後の活動について考える機会になったという意見も多かった。大阪市の週末里親向けの研修ではあるが、大阪府の週末里親にも案内し、参加してもらった。

参加数 市里親 24 家庭 34 名、府里親 6 家庭 8 名、施設職員 14 カ所 17 名

(2) 4月15日（土） 13:30～16:00（対象：里親、施設職員）

後期の懇談会は3月末まで謝礼金を配付する目的も兼ね、4月に実施している。今回は例年通りの「懇談会」スタイルで、小学3年生まで、4、5年生、6年生以上の子どもの里親の、3グループに分かれ、話し合いをおこなった。

今回は、今年度から活動をはじめた里親も複数おり、ベテランの里親がアドバイスする場面があったり、それぞれの経験を共有したりするなど、活発な意見交換がなされた。懇談会終了後、部屋を開放していたため、週末里親同士、また週末里親と施設職員等、個別に話す様子も見られ、貴重な時間を作ることができた。

参加数 里親 18 家庭 24 名、施設職員 14 カ所 21 名、オブザーバー毎日新聞記者 1 名

【週末里親制度説明会】

3月11日（土） 10:00～11:30

『週末里親ってなあに？』と題して説明会を開催した。今回は、週末里親制度の説明の後、児童養護施設入舟寮（大阪市港区）の松木里親支援専門相談員より児童養護施設について、また児童養護施設で暮らす子どもにとっての週末里親の意義について話をしていただいた。その後、参加者から質問を受け付けたところ、人数も少なかったため質問や感想等、色々な話ができ、参加者から有意義だったという感想が多く、週末里親についても家族と相談して検討するという方が多かった。個別相談ほど敷居を高く感じずに参加できるこのような形式での説明会を定期的におこなうことで、週末里親制度の周知、新規登録者の増加につなげられるのではないかと感じている。

参加者 8組9名 施設職員3名 （その後、うち1組はオリエンテーション面接を希望、実施した）

Ⅷ. 大阪市よりのその他の委託事業

【大阪市里親制度普及促進事業】

平成24年度より、同事業が公募型となり、毎年の応募、審査を経て、委託事業者として選定されていたが、27年度より、「愛の手運動」にまつわる部分の事業については、公募型ではなく、協会を指定事業者として委託できることとなった。事業には、愛の手運動による里親開拓、養親希望者への研修、委託里親家庭等への訪問指導、全国の児童相談所里親担当者連絡会の企画などが含まれる。

X. 大阪府里親支援機関業務

平成20年10月に大阪府より里親支援機関としての業務委託を受け、里親制度の普及啓発、里親研修、里親委託推進のための相互交流、施設入所児童を対象とする週末里親事業の実施等を行ってきた。週末里親事業については従来通りであるが、28年度6月より委託業務内容に大きな変更があり、おもに養子里親の支援を行うこととなった。事業内容としては、以下のとおりである。

【養子里親支援機関事業】

(1) 養子里親の普及啓発に係る業務

- ・不妊治療中の夫婦を対象にした、リーフレットを作成した（2万部）。不妊治療クリニックや不妊治療助成金の申請窓口などに配布した。
- ・10月6日 大阪駅前での街頭キャンペーン
- ・11月6日 大阪府宅地建物取引業協会泉州支部主催の第33回泉州いい街フェスタ（岸和田市浪切ホール）に里親広報ブース出展（全員）。里親制度の広報のためのチラシを1,000枚配布した。
- ・11月10日 河内職員研修会にて養子縁組里親、週末里親について講演（田邊）
- ・2月11日 大阪府不妊専門相談センター ミニ公開講座講師（中島）
- ・2月12日 13:30～16:30 特別養子縁組啓発プログラム「親子になる！」

会場：大阪府立大学 I-site なんば 参加：176名

テレビ朝日ドラマ『はじめてまして、愛しています。』は、TV朝日山田プロデューサー、製作会社5年D組太田プロデューサー、脚本家遊川和彦氏が協会に取材に来られ、ドラマを制作された。会場で、ドラマを細切れに流しながら、ドラマ制作の背景や伝えたかった思い、撮影秘話、「親子になる」ことについてなどを遊川氏と岩崎との対談で話してもらった。

(2) 養子里親認定の手続き

- ・認定希望者の問い合わせ対応や、ガイダンスを協会で行った。
- 問い合わせ対応 78件
ガイダンスの実施 34件（うち24件が年度内に登録手続き開始）

(3) 研修の実施

- ・認定前研修（養親講座）6月（4組）、9月（2組）、12月（8組）、3月（8組）
- ・施設実習 14組
- ・更新研修（養親ゼミナールの日にあわせて） 9月20日（1組）、1月21日（1組）
- ・課題別研修（同上） 11月21日（2組）、1月21日（3組）、3月23日（3組）

(4) 要保護児童の委託先検討

- ・随時

(5) 子ども家庭センターとの連絡調整

- ・毎月2回、連絡会議を実施

(6) 里親家庭及び委託児童への支援

- ・初回面会後、実習中は施設への訪問や外出や外泊時の家庭訪問、また委託後は電話やメールでの相談対応、また家庭訪問を随時実施

(7) 里親委託等推進委員会調整委員会・里親委託等推進合同連絡会への委員派遣

- ・里親委託等推進委員会調整委員会 2月17日
- ・里親委託等推進合同連絡会 10月28日、3月15日

【週末里親事業】

今年も6組の週末里親子が成立しており、はぐくみホーム（養育里親）への移行も年1～2組ある。施設で生活する子どもにとって、貴重な家庭生活体験の場になっている。

①活動実績

- ・施設入所児童家庭生活体験事業

29施設 児童98名 里親77組（うち登録里親11組）

延べ回数 827回 延べ日数 1773日 （※2泊3日事業の活動含む）

- ・週末里親事業

3施設 児童4名 里親4組（児童養護施設から措置変更の週末里親子あり）

延べ回数 13回 延べ日数 29日

②2泊3日里親事業

長期休暇中、家庭に帰れない子どもを対象に、待機となっている週末里親希望者の中から協力者を募り、2泊3日の家庭生活を体験することを目的として実施。

	候補児童	マッチング数	うち週末里親へ移行
夏季	6名（5組）	週末3組/はぐくみ1組	週末1組/登録里親1組
冬季	9名（7組）	週末3組/はぐくみ2組	週末2組/登録里親1組

③平成28年度新規週末里親子

協会マッチングケース 6組 児童数7名

大阪市からのケース移管 1組 児童数1名

④大阪府週末里親懇談会

週末里親に集ってもらい、活動の様子や日頃感じている悩みについて、情報や意見を交換した。

12月17日実施 週末里親 10組11名 施設職員 8名

⑤週末里親研修

週末里親活動希望者に対し、社会的養護を必要とする子どもを理解してもらう、子どもが生活している施設の実情を知ってもらうことが目的。

日 時	10月15日 （高鷲学園）
内 容	・「施設で暮らす子どもたちの理解」 ・「週末里親と関わりを持っている子どもたちについて」 講師：若林 康一氏 児童養護施設高鷲学園 里親支援専門相談員 ・施設見学 ・週末里親体験談
参加者	11組18名

⑥週末里親相談対応として地域相談会に参加

センター名	日 時	場所および内容
岸和田	11月13日（日） 10:00～16:00	いこらもーる泉佐野 「地域の子育て応援イベント 里親ってなあに？」 ・里親制度啓発イベント・子ども向けレクリエーション・個別相談会
岸和田	1月29日（日） 13:00～16:30	熊取町図書館 「“さとにきたらええやん” 上映&里親相談会」

X I. 生活資金・奨学資金貸付制度

平成25年度に21歳男性（養子）が自立支援フリースクールへ通う学費1年分を、教育支援資金として316,800円貸し付けた。男性は派遣社員として就労し、28年度は21,120円の返済がなされ、返済残高は168,960円である。新たな貸し付けはなかった。

XⅡ. その他の活動

◆新聞社等マスコミからの取材に対応した。

- H28. 4. 8 TV朝日山田プロデューサー、製作会社5年D組太田プロデューサー、脚本家遊川和彦氏
(TVドラマ製作の取材のため)
4. 15 読売新聞高倉記者
5. 27 TV朝日山田プロデューサー、製作会社5年D組太田プロデューサー
6. 20 東洋経済新報社中原記者
9. 2 朝日新聞山内記者
9. 12 朝日新聞山内記者
11. 8 日本経済新聞藤井記者
12. 15 朝日新聞辻村記者(電話取材)
- H29. 1. 23 毎日新聞平川記者
2. 24 NHK大阪放送局報道部山口ディレクター、上田カメラマン
3. 3 ウーマンライフ新聞中井氏、浦田氏
3. 4 NHK制作局「あさいち」根兵ディレクター

◆協会活動や里親制度等について知るために以下の人々の訪問があった。

- H28. 4. 21 「里親さんを広め隊」神代氏(協会の活動について)
4. 25 奈良市役所子ども未来部子育て相談課野儀課長、中森主任、並川支援員(協会の活動について)
5. 18 清心寮溝川里親支援専門相談員、くるみの家塚田保育士(協会の活動について)
5. 20 大阪市役所子育て支援部こども家庭課迫野課長(協会の現状について)
6. 3 中央大学鈴木先生と鹿児島大学阿部先生(養子の不調ケースについて)
6. 22 釜ヶ崎見送りの会の杉本代表(協会の活動について)
6. 22 神戸女子大学4回生の横野さん(卒論論文の情報収集)
8. 23 大阪府立松原高校3年生金田君他3名(協会の活動について)
9. 12 厚生労働省山本審議官、大阪府福祉部子ども室家庭支援課杉本副主査(視察のため)
11. 10 常磐会学園大学国際こども教育学部4回生の植木さん(卒業論文の情報収集)
11. 25 大阪府立松原高校3年生山科さん(愛着関係、親子関係について)
12. 2 ISSJ 榎本氏(協会の活動について)
- H29. 2. 10 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長吉田氏他2名、大阪府家庭支援課古川課長補佐(視察のため)
2. 15 大阪市議員佐々木りえ氏、秘書田島氏、議員インターシップ水ノ江氏(協会の活動について)

◆大阪市こども相談センター主催の出前相談会に相談員として協力した。

- H28. 4. 10 もりのみやキューズモール(田邊)
6. 12 イオンモール大阪ドームシティ(山上)
7. 10 イオンモール鶴見緑地(和田)
8. 5 あべのハルカス近鉄本店(中島)
10. 20 平成28年度難波市民学習センターネットワーク型市民セミナー「養子縁組を考える～不妊と選択～」Part3(山上・田邊)
11. 27 「家族の意味、親子の意味、一緒に考えたい大阪市里親会シンポジウム～親と暮らせない子どもたちの今～」にて(山上)
12. 18 あべのハルカス近鉄本店縁活プログラム「さとおやってなぁに？」にて(和田)

◆以下の企業や団体が愛の手運動のためにという趣旨でイベント等を企画し、その収益を活動資金等として寄贈いただいた。いずれの場合も、単にご寄付を受けたということだけではなく、愛の手運動のPR活動としての効果もあり、感謝している。

- *グローバルアシスト神谷理事より玩具多数
- *愛の手紙上チャリティーオークション (1,107,958 円)
- *一般社団法人大阪府宅地建物取引業協会泉州支部 (185,604 円)
- *一般社団法人大阪府宅地建物取引業協会チャリティボウリング大会 3 月に開催
(受贈は 4 月 29 年度として 209,650 円)
- *一般社団法人大阪府宅地建物取引業協会北摂支部 (受贈は 4 月 29 年度として 26,956 円)
- *一般社団法人大阪府信用組合協会・株式会社オリエントコーポレーション
(受贈は 2 月 29 年度として 346,068 円)
- *浪速遊技業組合 (50,000 円)
- *一般社団法人大阪府宅地建物取引業協会青鳩会 (100,000 円)
- *向井珍味堂 (23,291 円)
- *第一工芸株式会社 (42,010 円)

◆府子ども家庭センター里親担当者会議に出席し、大阪府子ども家庭センター、大阪市こども相談センター、堺市子ども相談所との連絡調整に努めた。

◆27 年度より大阪市里親認定前研修事業は他機関が受託したが、引き続き、「認定前研修Ⅰ」の講師は岩崎が引き受けている (年 4 回)。

◆厚生労働省「児童虐待対応における司法関与及び特別養子制度の利用促進の在り方に関する検討会」に検討委員として参加、15 回中 13 回出席 (岩崎)。

◆10 月 23 日 大阪市・堺市合同里親啓発活動のためキンチョウスタジアムへ (山上・中島・田邊・和田・中合・井手)、フラッシュモブのダンサーとして参加 (和田・中合)。

◆日本財団の助成を受け、「真実告知にまつわる調査」を行った。10 年ごとに真実告知に対する意識や実際について、養親向けの調査をおこなっており、今回が 3 回目となる。数字だけではなく、具体的な事例を自由記述してもらったところ、多くの事例が集まった。報告書を作成中である。

◆日本財団のハッピーゆりかごプロジェクトの依頼を受け、「養子縁組家庭に関するアンケート調査」に協力した。養子と養親の生活状況、進路状況などについての内容で、報告書が作成された。

◆テレビ朝日ドラマ『はじめまして、愛しています。』の取材協力
TV 朝日山田プロデューサー、製作会社 5 年 D 組太田プロデューサー、脚本家遊川和彦氏が協会に取材に来られ、ドラマを制作された。ドラマは 7～9 月に放映され、遊川氏と岩崎の対談がドラマの番組ホームページに掲載され、DVD の特典映像にもなっている。